

神々の古事記
天祖父社・大鬼社

「神世七代」

高天原と呼ばれる天の高いところ
に、天の神に続いて地の神々が
現れました。

まず国之常立神、豊雲野神が現
れすぐに身を隠されました。
次に宇比地邇神と須比智邇神が
現れ、砂や泥が沼になりました。
次に角杵神と活杵神が現れ、沼地
が固まり春芽も芽ぶき、意富斗能
地神と大斗乃弁神が現れ、ようや
く大地が固まりました。次に淤母
陀琉神と阿夜訶志古泥神が現れ、
喜びの声を上げました。

最後に、伊邪那岐神（伊弉諾尊）
と伊邪那美神（伊弉册尊）が現れ
ました。この十二柱の神々を「神
世七代」と言います。



廣峯神社の大鳥居から右手の旧
参道を登っていくと、御旅所と呼
ばれる広場にでます。そこに天祖
父社があり、伊弉諾尊と伊弉册尊
をお祀りしています。また、本殿
裏の大鬼社にも伊弉諾尊をお祀り
しています。

この二柱の神様は、廣峯神社の
御祭神である素戔嗚尊の親神であ
られ、日本の国土をお生みになら
れた後も、自然、住居、生産に関
する神様をたくさんお生みになら
れました。

天祖父社の傍には注連縄が張ら
れた夫婦石があることから、縁結
びや夫婦円満、子孫繁栄、家内安
全、子授けを祈願する方が参拝さ
れていきます。また、大鬼社には、
災厄除けを祈願する方が参拝され
ています。